**Alexander the Great: Logistics**

（YouTube動画）

https://www.youtube.com/watch?v=ahfyIxLlbGA&t=837s



古典期のギリシャ軍の兵站

都市国家同士の戦争：双方が合意した戦場で戦う。ファランクスに適した戦場。短期間で戦争は終了。兵には従者、奴隷、女性が伴われて、それらは時に兵の数を越えて多くの食糧と遅い進軍の原因となった。移動には牛車を使った。牛車は牛の首と胴への負担が重く、平坦でない地を進むことが困難であった。

→短い距離の移動と、遅いスピードの制約

フィリッポス王の改革

Sustainability、mobility、speedを上昇させる

50年前のクセノフォン(Xenophon)の経験を活かす：彼のギリシャ傭兵軍が小アジアを横断して帰還する際に、貨車を焼き捨てさせて機動力を大きく上昇させた。

〇牛車の使用を禁止、馬車に切り替える

〇兵に兵站を持たせて移動する。防具（もしかしたら長槍sarissaも二つに畳んで）、レーション、食器、寝具、工具、薬、30日分の穀物、および個人的携帯物。あわせて３６kg。

〇非戦闘員の人数減。女性の同行禁止、騎兵１騎に従者1人、歩兵10人に従者1人。従者は粉ひき臼、架橋および登山用のロープ、および自身のレーションと寝具を携行する。

BC335のテーバイ殲滅戦で、息子のアレクサンドロスは父の改革軍を引き連れて北方から行軍し、無防備なままのテーバイ反乱軍を襲撃することに成功した（動画では13日で500マイル（804km）を行軍した、と説明されているが、これはおそらくまちがいであろう）。

アレクサンドロス大王のペルシャ遠征

BC334、遠征を開始

〇広大な帝国を横切るために軍の改革が行われた。輜重隊の監督者”skoidos”。輜重の防衛、行軍の指揮、役畜の健康管理、物資の分配を担当。

〇荷車はテント、たきぎ、略奪品、および非戦闘時には長槍も運搬するので、その健康管理は重要。アレクサンドロスは馬とラバ（mule）に加えて、ペルシャ遠征でラクダを採用した。

馬・ラバは90kgを載せて移動するが、ラクダは136kgを運搬する。ラクダは荒地でも長期間移動できて、どんな食べ物と水でもそこにあれば摂取できる。アレクサンドロスは遠征を通じてこの3種の役畜を補給した。荷車はクセノフォンがやったように行軍のさまたげとなったときに焼き捨てられたが、それでも負傷者と攻城兵器を運ぶために幾分かは必要であった。

〇遠征が長期化したので、女性をマケドニアから呼び寄せることを許可しなければいけなかった。また兵が戦利品の女性を妻とすることも認めた。そのうち子供まで行軍に加わり、アレクサンドロスの進軍の大きな重荷となった。

〇配分される食糧は乾燥した小麦・大麦・雑穀類。これを臼でひいてパンにする。またはビスケット・粥で食べる。肉や魚はめったに配給されず、乾燥ナツメと乾燥イチジクが重要な食糧。アレクサンドロスは兵を迅速に行軍させる命を出すときには、兵に事前に調理されたビスケット・乾燥果実・干し肉を携帯させた。これらは食器も要らず兵を素早く行動させた。

〇過酷な気候で戦う遠征軍の兵には、1日あたり3600カロリー（1.4kgのパンに相当）と1.8ℓの水が必要。馬とラバは1日あたり4.5kg分の穀物・干し草と30ℓの水が必要、ラクダは水だけで何日も耐えるものの最も効率よく働くためには水37ℓ、穀物4.5kg、干し草11kg必要。この補給を行うためにはペルシャ帝国の内陸では使える川がなく、陸路を運ぶ家畜も得難く、また野盗の襲撃があり、現地の村落にはアレクサンドロスの軍を支える余剰はほとんどなかった。

〇アレクサンドロスがガウガメラの戦いでペルシャ皇帝に勝利したとき（BC331）、ペルシャ帝国の多くの地方総督（サトラップ）はアレクサンドロスを新しい支配者と認めて降伏した。アレクサンドロスはそれらに向けて軍が進む前に使節を送り、軍の補給を各地で用意するように命令し、時には人質を取った。

〇従わない地方総督には、まず現地の地形、道路、気候の情報を収集して、それから少数のエリート部隊を電撃的に送って襲撃した。また部隊を細かく分けて、掠奪を行わせた。これはペルシャ中央部で頻繁に行われた。

〇冬季は、人口が多くて肥沃な土地で滞在した。通常は補給が容易な川の近くを選んだ。

〇最後のインドからの帰還路において、アレクサンドロスは海路から補給することを期待した。だが船はモンスーンで何カ月も出航できず、ゲドロシア砂漠で軍の75％が死んだ（BC325）。